

大規模災害時に必要とされる、自動輸液ポンプ (株)アイカムス・ラボ、(有)イグノス、岩手医科大学

課題・災害時の人命救助に必要な装置が乏しい

- 大規模災害時に患者に対して、医師が足りない。
- 救急用の自動輸液ポンプがあれば、阪神大震災では13%の人が助かったと言われている。
- 今後想定される大規模災害に向けて、救急用の自動輸液ポンプの開発が急務である。

通常使う輸液ポンプを救急時にも使用可能に

- 院内で通常使用している自動輸液ポンプは大型・非バッテリーのため、救急用に使えない。
- 院内でも使用可能な、小型・バッテリーの高精度自動輸液ポンプを開発した。
- これにより、大規模災害時に院内で使用している自動輸液ポンプをそのまま救急に使用が可能。

会社名:(株)アイカムス・ラボ

直径4mmの小型減速機を開発しており、各種装置の小型化の設計開発を行っている。(株)ニプロとの提携により全国展開。輸液システムの市場規模約330億円(2009年)のシェア25%を狙う。

写真1



通常使用されている輸液ポンプは大きい。
救急の現場は狭小であるため、小型の輸液ポンプが必要である。

写真2



スタンドフリー自動輸液ポンプ